

支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区訪日外国人自然体験活動推進プログラム 令和元(2019)年度までの総括

1. 指標目標値について

(1) 支笏洞爺国立公園支笏湖・定山溪地区の訪日外国人利用者数(年間推計利用者数)

目標値の設定:

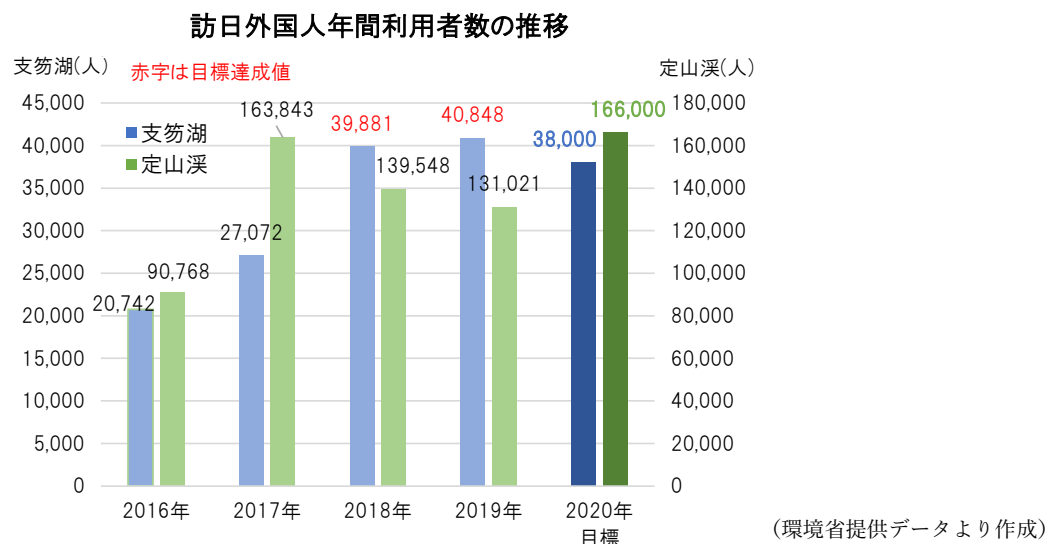
この指標は、観光庁が四半期毎(年4回)に空港等で行う訪日外国人消費動向調査(アンケート)結果の訪問先回答数をもとに推計した年間の国立公園利用者数。全国の国立公園全体の訪日外国人利用者数を2020年に1000万人(2016年数値の1.83倍相当)とすることが政府目標であったことから、支笏湖地区、定山溪地区においても2016年数値の1.83倍の数値を目標値とした。

【支笏湖地区: 2020年目標値 38,000人】

2018(平成30)年、2019(令和元年)年に目標値38,000人を上回り、目標は達成された。

【定山溪地区: 2020年目標値 166,000人】

平成29(2017)年は目標値166,000人に近い16万人台であったが、その後13万人台となった。



※利用者数の数値は12月までの推測値であり、コロナ禍の影響をほぼ受けていないものと思われる。

(2) 支笏湖地区及び定山溪地区の訪日外国人宿泊客延べ数

目標値の設定:

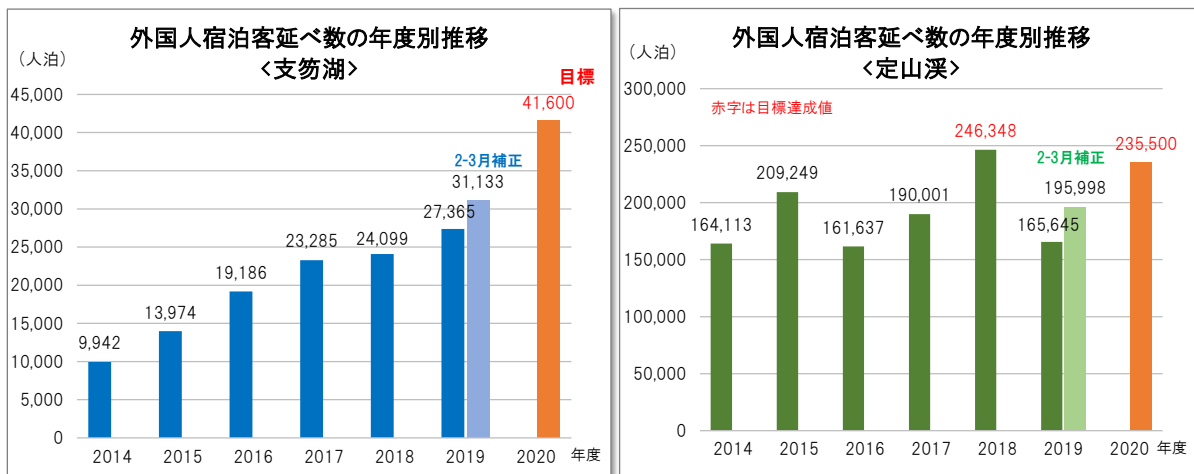
2015(平成27)~2017(平成29)年度の3年間の対前年比の平均(支笏湖1.33⇒補正後1.21、定山溪1.07)を2018~2020年度までの対前年比として、2020年度の目標を支笏湖地区41,600人泊、定山溪地区235,000人泊とした。

【支笏湖地区： 2020 年目標値 41,600 人泊】

2019 年度はコロナ禍の影響があったが宿泊客延べ数は増加しており、2020 年 2 月及び 3 月のコロナ禍の影響を補正すると約 31,000 人泊となった。しかし、2020 年目標値には及ばなかった。

【定山溪地区： 2020 年目標値 235,000 人泊】

2018 年度は胆振東部地震の復興割の影響もあり目標値の 235,000 人を超えたが、2019 年度は補正値でも約 196,000 人にとどまった。



(千歳市提供データより作成)

(札幌市提供データより作成)

※延べ宿泊者数の補正：コロナ禍の影響を受けた 2019 年度の 2-3 月の数値を、過去 3 年間 2016-2018 年度の 2-3 月の平均比率で算出し、影響を受けていなかったと仮定した 2-3 月数値による 2019 年度合計値を算出。

(3) 支笏湖地区及び定山溪地区の訪日外国人利用者の平均泊数

目標値の設定：

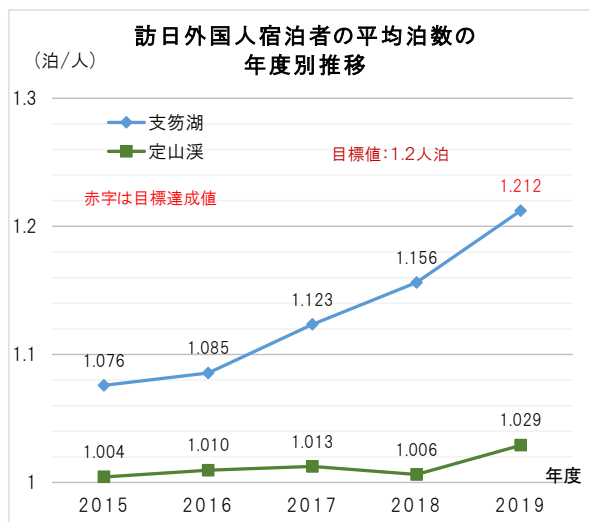
2017 年度の全道の外国人平均宿泊日数 1.24、札幌市全体の外国人宿泊日数 1.2、等各地の平均泊数を参考に 2020 年目標を支笏湖地区、定山溪地区ともに 1.2 泊とした。

【支笏湖地区： 2020 年目標値 1.2 泊】

平均泊数は増加傾向にあり、2019 年度に 2020 年度目標値 1.2 を達成した。

【定山溪地区： 2020 年目標値 1.2 泊】

平均泊数は 1.01 前後を推移しており、2019 年度は 1.029 とやや増加したが、目標値には達しなかった。

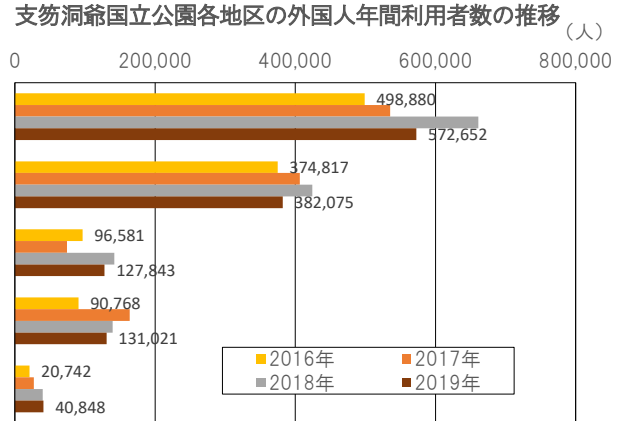
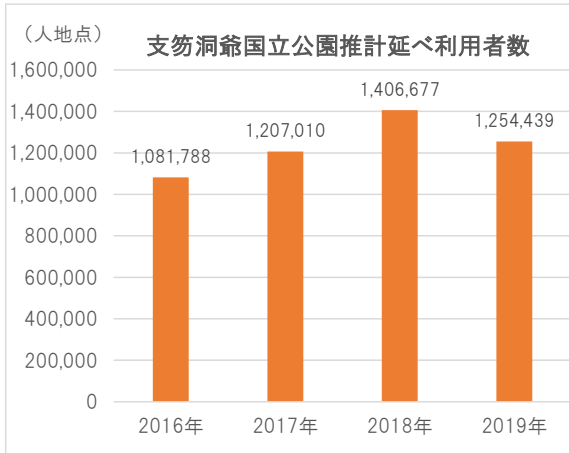


(千歳市及び札幌市提供データより作成)

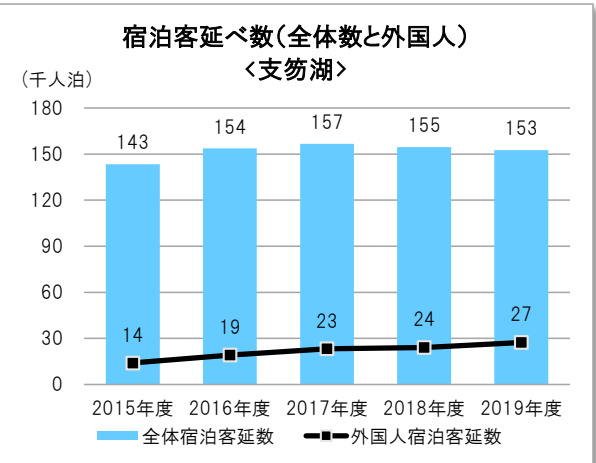
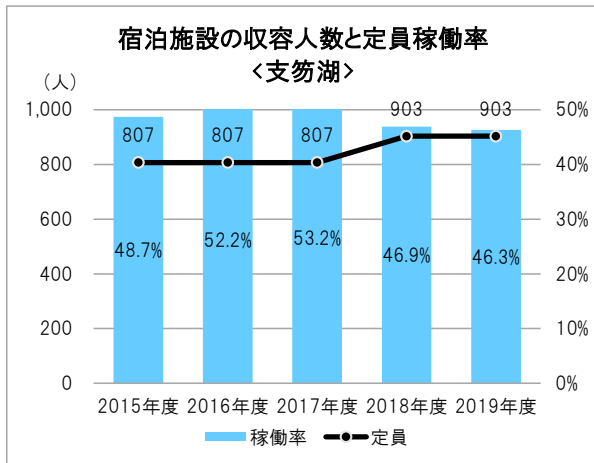
2. 利用状況の詳細と2019年度までの総括

(1) 訪日外国人等の利用状況詳細

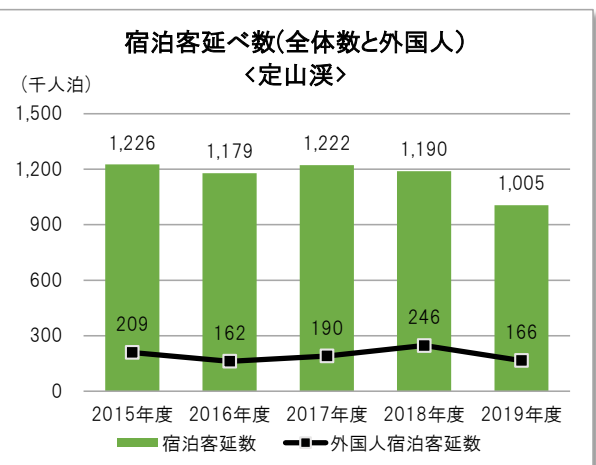
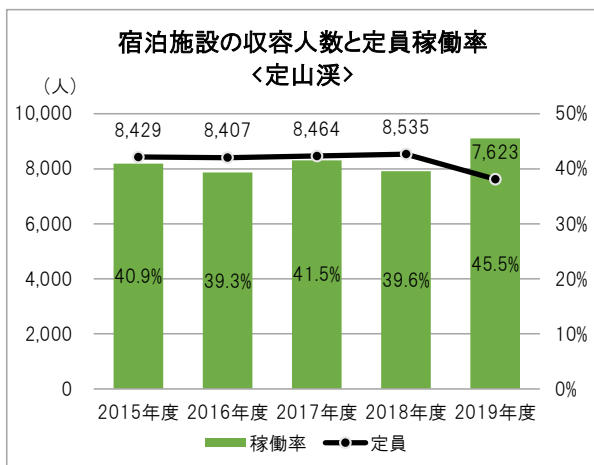
① 支笏洞爺国立公園の訪日外国人利用者数の推移



② 支笏湖地区定山溪地区の宿泊施設と宿泊客延べ数の推移

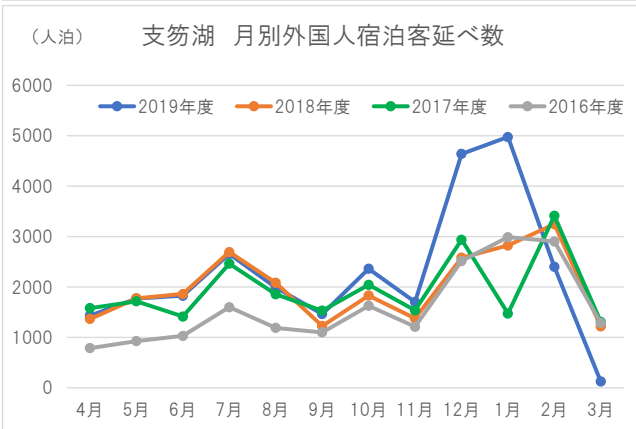
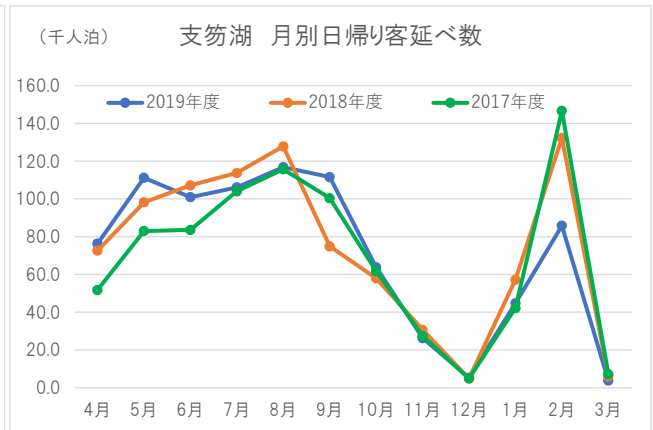
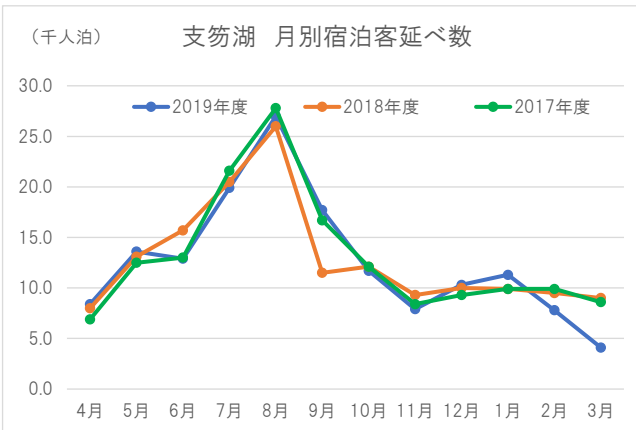


(千歳市提供データより作成)

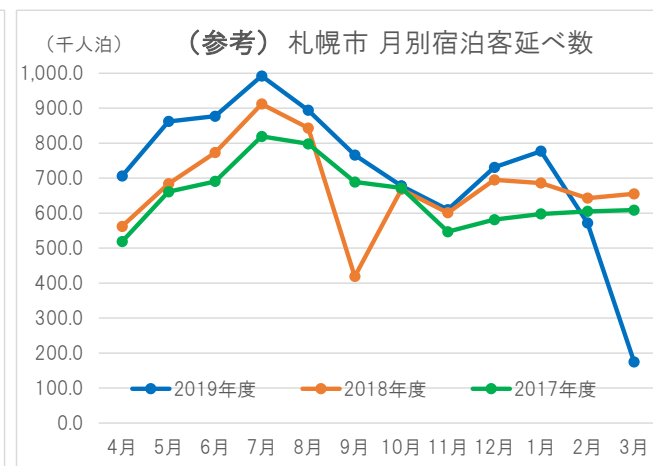
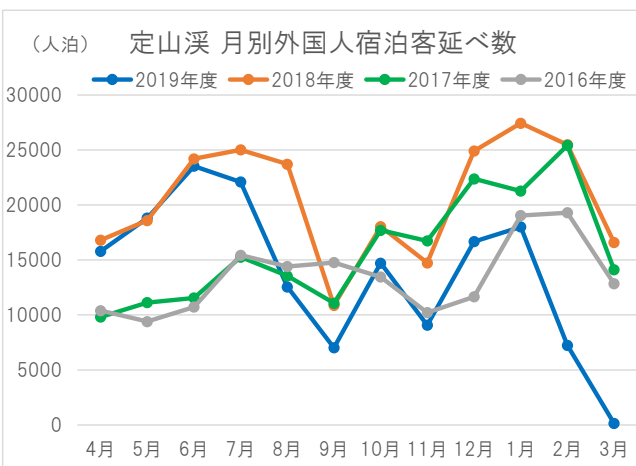
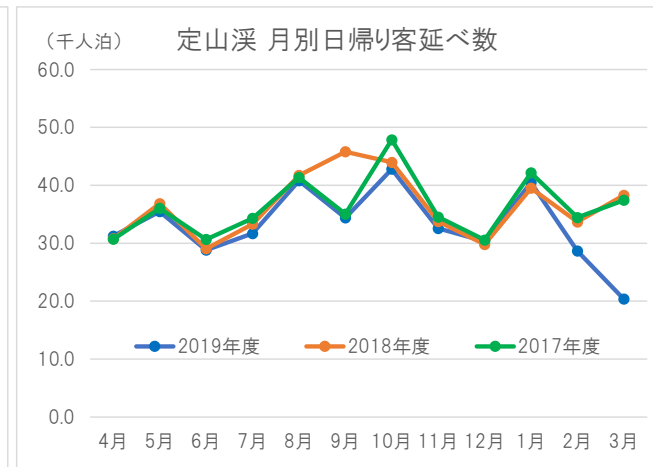
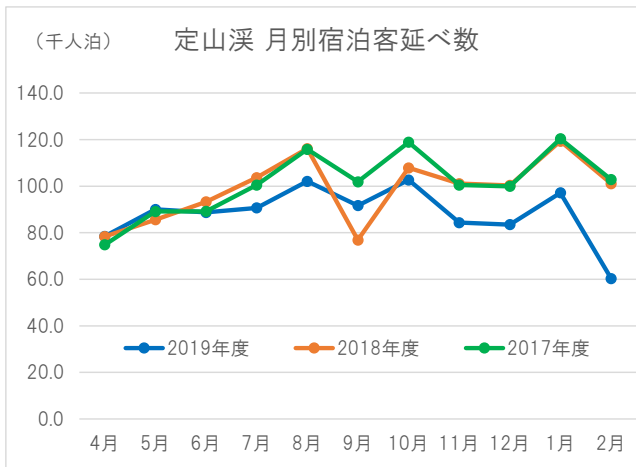


(札幌市提供データより作成)

③ 支笏湖地区定山溪地区の利用者数の月別推移

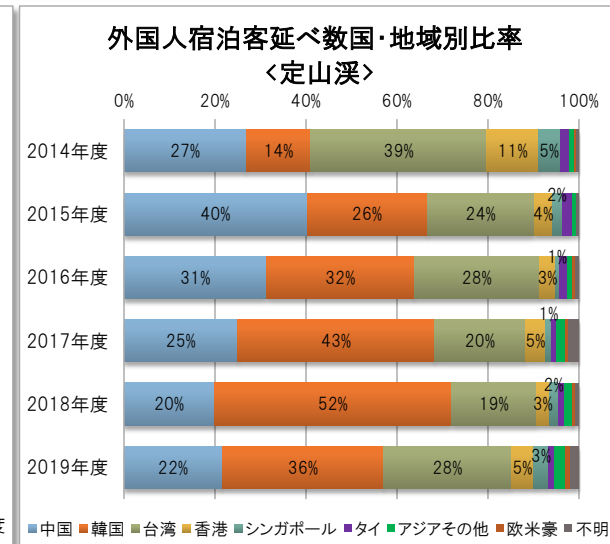
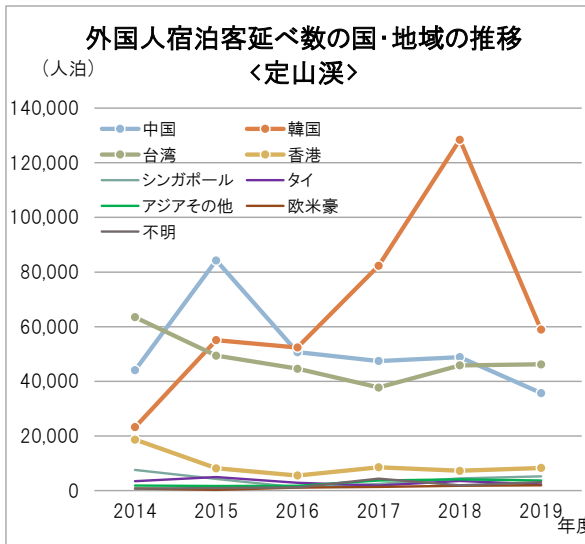
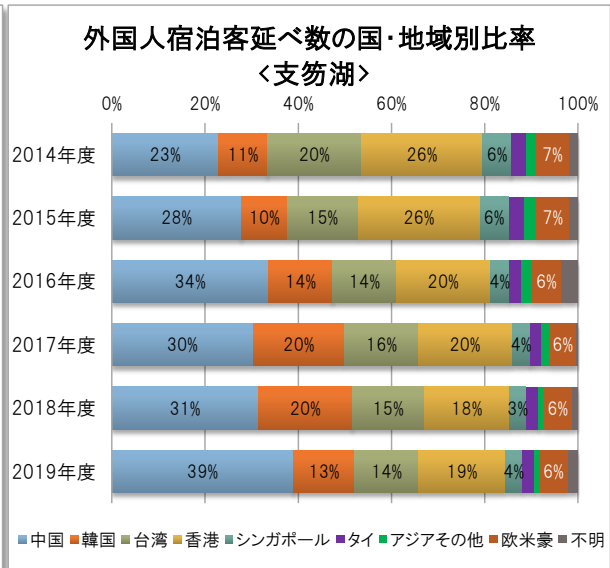
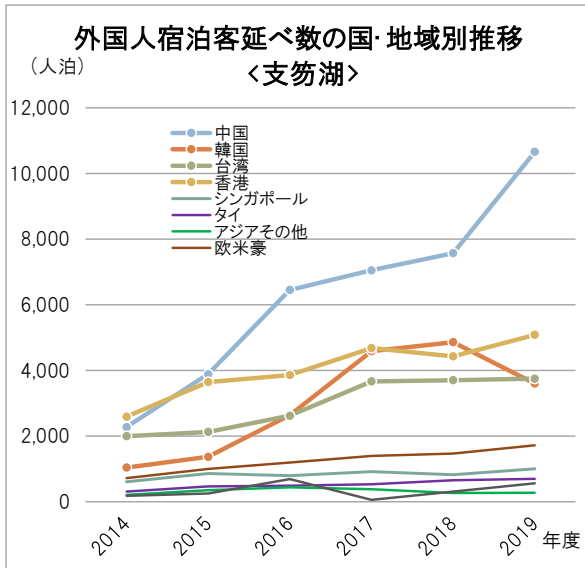


(支笏湖は千歳市提供データより作成)



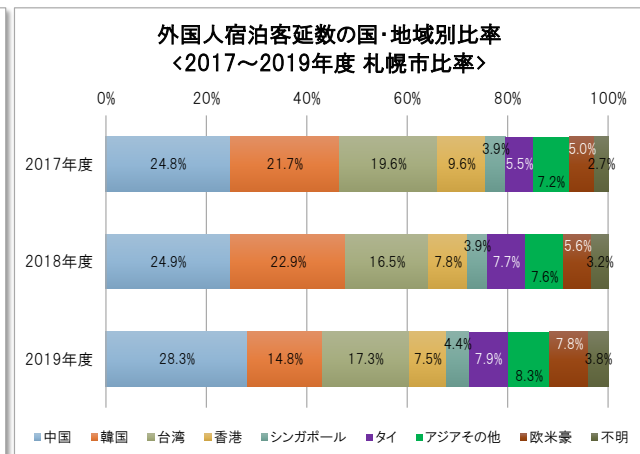
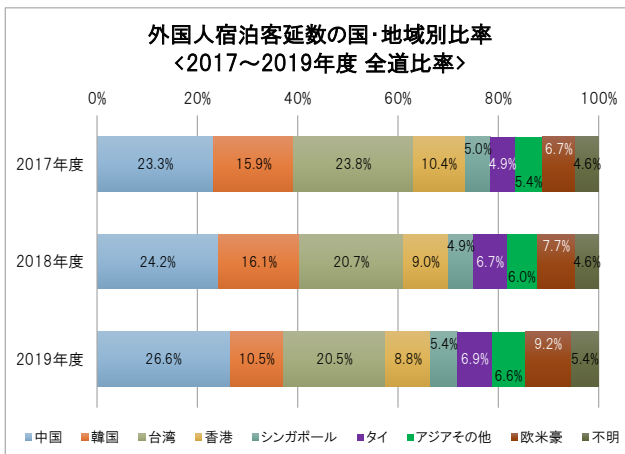
(定山溪は札幌市提供より作成、(参考)札幌市は「札幌の観光」掲載データより作成)

④ 支笏湖地区定山溪地区の外国人の内訳推移



(支笏湖は千歳市からの提供データ、定山溪は札幌市からの提供データより作成)

(参考)



(北海道観光入込客数調査報告書、及び「札幌の観光」の掲載データより作成)

(2) 2019年度までの指標数値についての総括

① 訪日外国人利用者数(年間推計値)

- ・支笏洞爺国立公園全体の延べ利用者数は過去4年間では2018年が最大となった。国立公園各地区の利用者数はこの4年間で増加しており、支笏湖地区は2016年から約2倍近くの利用者数となった。定山溪地区は目標値には達しなかったが、2019年は2016年比で1.5倍近い利用者となった。
- ・この指標はアンケート調査による推計値であるため、宿泊や日帰りの目的地となっている場合にカウントされると考えられる。支笏湖地区は宿泊施設の収容数は大きくないが、千歳空港に近いことから立寄り日帰り地点として利用されることも多かったのではないかと推測される。定山溪地区についても、宿泊のほか、札幌市街からの日帰り利用が多くなることで、利用者が増加すると考えられる。

② 訪日外国人宿泊客延べ数

【支笏湖地区】

- ・ホテルが1軒増え宿泊収容人数が100人程度増加したが、支笏湖地区全体の宿泊客延べ数は155,000人泊前後を推移している。
- ・外国人宿泊客延べ数の増加率は2017年度まで高かったが、2018年度以降は鈍化した。2020年目標値の41,800人泊は、2019年度の全体宿泊客延べ数の153,000人泊の27%に相当する。2019年度の北海道全体では、外国人宿泊客延べ数は全体宿泊客延べ数の20.8%相当する(北海道観光入込客数調査報告書資料編のデータより)。目標値の設定が2019年度の全体宿泊客延べ数の20%相当の30,600だったとすれば、2019年度の補正值では達成していたこととなる。
- ・外国人宿泊客延べ数の内訳をみると、中国、韓国、台湾、香港の4国・地域で8割を占め、2019年度では、国際関係の影響と思われる韓国の減少が目立つ。英国の文化背景をもつ香港の比率が高く、また欧米豪圏の比率が札幌市と同程度にあることから、アフターコロナにおいては、アジア圏以外からの利用増が期待される。

【定山溪地区】

- ・外国人宿泊客延べ数は2018年度に目標値を超え246,000人泊となったが、2019年度は宿泊収容人数が約900人減少しコロナ禍の影響もあったことから、全体の宿泊客延べ数が100万人台となり、外国人宿泊客延べ数は補正值でも約196,000人泊にとどまった。
- ・定山溪地区の外国人宿泊客延べ数の内訳は、中国、韓国、台湾の3国・地域で全体の8割以上を占めており、特に韓国は2018年度5割を超えていた。しかし、2019年度は、コロナ禍のほか、国際情勢の影響を大きく受け、韓国旅行者の宿泊客延べ数が約6万減少した。
- ・月別の外国人宿泊客延べ数では、2018年度以降4月から7月の期間で5,000~10,000と大きく増加した。4月から7月の全体宿泊客延べ数における変化は小さいことから、アフターコロナにおいても、4月から7月の外国人の利用推進が望まれる。また、交際情勢による影響リスクを軽減するため、中国、韓国、台湾以外のからの国・地域からの旅行者を誘致していくことが必要とされる。

③ 支笏湖地区及び定山溪地区の訪日外国人利用者の平均泊数

【支笏湖地区】

- ・支笏湖地区では、収容人数が100人を超える宿泊施設が3軒程度と規模が小さい施設が多いことから、1泊移動型の団体周遊旅行による利用よりも個人旅行者による利用が多いと推測され、このことが目標値の平均泊数1.2を達成した要因のひとつと考えられる。外国人宿泊客延べ数の内訳において、香港やシンガポール、欧米豪圏の比率が比較的高く、これらの国・地域の旅行者は個人旅行での宿泊が主であることから滞在日数の延長も生じやすいと考えられる。

【定山溪地区】

- ・定山溪地区は、宿泊収容人数が支笏湖地区の約8倍程度あり、収容人数が1,000人を超える施設が3軒ある。数百人を収容できる施設が数軒あり修学旅行や団体周遊旅行に利用されている。外国人についても1泊移動の周遊ツアーに参加するアジア圏旅行者が多いと推測され、このことが、平均泊数が伸びない要因と考えられる。宿泊者の滞在日数を伸ばすためには、滞在型の団体ツアー商品の開発やそれらの誘致、連泊可能な個人旅行者の誘致等が必要となっている。

2. 取組の事業の主な成果

2017(平成 29)年度に策定した推進プログラムの取組について、2020 年まで(コロナ禍以前)の主な成果を以下に示した。

(1) アドベンチャートラベル (AT) の推進

- ・アドベンチャートラベルを主要なターゲットとして、情報収集、関係機関の連携、情報発信等の取組がなされ、2021 年にアドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)の北海道開催が内定した。
- ・アドベンチャートラベルに対応したガイド育成の研修が継続的に開催されており、また、ATWS 開催に向けて「ATWS 北海道実行委員会」が設立され、提供する具体的なツアーコースを選定するなどの準備が進められている。

(2) 観光案内所等における継続的な情報発信・情報提供

- ・旅行者の主要な立ち寄り先となる新千歳空港、札幌駅、千歳駅、定山溪観光案内所において、またレンタカー事業者や周辺市町村と連携して、多言語サイトの制作やパンフレット配布等、支笏湖・定山溪地区の情報発信、情報提供が継続的に進めている。
- ・定山溪地区におけるビジターセンター的な役割を担う施設について、地元との協議、施設整備のために必要な取組みを実施した。
- ・シーニックバイウェイルートと協働によりルート活動のプレリリース等の情報発信を継続的に実施するとともに、外国人道路利用者向けの道路情報マップを作成し配布した。

(3) 案内や標識等の多言語化や Wi-Fi 環境の整備

- ・定山溪案内所では翻訳ツール活用により、また支笏湖ビジターセンターでは英語対応スタッフの増員により、外国人窓口対応を強化した。
- ・定山溪温泉街の標識や支笏湖温泉地区における表示の多言語化を実施した。
- ・国道における道路案内標識、交差点名標識、道路情報板の英語表記の適正化を継続して実施した(高速道路ナンバリング標識の整備等)。
- ・サイクルツーリズム推進のため、国道 453 号における路面表示や案内表示等を設置した。
- ・支笏湖温泉地区にインターネット環境を拡充するため、Wi-Fi 環境を整備した。
- ・支笏湖ビジターセンターにユニボイスを導入し、多言語対応、視覚障害者対応を行った。

(4) 海外へのプロモーション、支笏湖・定山溪地区の情報発信

- ・海外の Web サイトへの掲載や、インフルエンサー、旅行者・メディア事業者等の招聘による情報発信の強化、海外旅行社等を対象とした商談会へ参加し、定山溪・支笏湖地区を海外にアピールした。
- ・国立公園を紹介するコンテンツ集を作成するとともに、フェイスブックやインスタグラムを活用した国立公園の海外への情報発信を継続して実施している。

(5) 自然体験プログラムの継続開催・企画・開発・調査等

- ・自然体験プログラムの情報収集や整理、支笏湖地区におけるニーズ調査を実施した。

- ・支笏湖地区において、ナイトタイム活用のための試験ツアーや外国人モデルツアーを実施した。
- ・定山溪紅葉時期のかっぱバスを運行し、紅葉時期のツアーを継続して開催した。
- ・定山溪温泉街のまち歩きを推進するため多言語対応の QR を設置した。
- ・ワーケーション誘客事業において、e-bike による脱炭素を志向した体験メニューのモニター試行を実施した。

(6) 利用ルールの普及・啓発

- ・支笏湖の湖面利用のルールを策定し、ルールガイド(英語と日本語)を印刷して事業者や一般利用者に配布した。
- ・樽前山の登山者数について外国人を含めカウントして利用状況を把握するとともに、登山マナーや安全情報のリーフレットを配布した。

(7) 滞在・利用空間の施設や景観の整備、充実

- ・定山溪地区の魅力的な景観形成を推進するための民間事業者が行う取組みに対する補助制度を実施している。
- ・国道 230 号、453 号の「秀逸な道」指定による沿道景観の改善（クッションドラム(衝撃吸収のための設置物)の撤去、標識の集約化等)を実施した。
- ・サイクルツーリズム推進のため、国道 453 号における走行環境の改善を実施した。
- ・モラップ線歩道整備のための実施計画を策定した。
- ・登山道に関する現況調査を実施し、構成員等による意見交換会により安全対策を含めた管理の課題等を関係機関で共有した。
- ・支笏湖ビジターセンターにおいて VR 映像を導入し展示内容を充実するとともに、展望デッキを増設し快適に過ごせる空間を整備した。支笏湖温泉地区における景観整備のため、電線の地中化、また、展望確保のため通景伐採(危険木除去も含む)を実施した。
- ・湖面利用の適正化や氷濤まつり活用と連動する支笏湖第 5 駐車場再整備計画に着手した。

(8) 国立公園周辺地域の利用推進と連携

- ・札幌国際スキー場の活用に関する調査を実施するとともに、紅葉時のゴンドラ運行とあわせたシャトルバスの運行を継続して実施している。
- ・恵庭溪谷におけるバス巡り事業を継続して実施した。
- ・民族共生象徴空間ウポポイの関係機関や団体・企業等による自主的な取組みについて情報共有や意見交換ができる「ウポポイ活用促進プラットフォーム」を開催した。
- ・国立公園パンフレットを提供するなど、ウポポイとの協力関係を構築した。

(9) 人材育成と利用推進のための組織強化

- ・知事認定ガイドの育成等、北海道アウトドア活動振興推進計画を推進した。
- ・ホテル従業員のスキルアップをねらった研修を実施した。
- ・支笏湖における DMO と同様な役割を担う組織(一般社団法人)を設立した。